

総合計画推進のための意見交換会で出された主な意見等

1 はじめに

市で検討している総合計画推進のための評価・改善の仕組みをもとに、これまで2回にわたって意見交換を行ってきました。

市で検討している仕組みは、計画策定後も市民参加型で評価・改善を行っていかうとするものです。

全国的に事例が少ない中で、愛知県東海市の事例を参考に、能代市に合った仕組みをつくっていくことを共通認識として、意見交換を進めてきました。

主な意見等について、(1)組織のあり方、(2)評価のあり方、(3)スケジュール、に区分して整理を行いました。

2 意見等の概要と市事務局の検討状況

区分	意見の概要 (Adはアドバイザー意見)	市事務局の検討状況
(1)組織のあり方	①協働会議の役割について	
	・推進会議（市）、協働会議（市民）の名称では、推進会議だけが推進する組織という印象を受ける。	・市内部の組織として、策定時は策定会議だったので、推進時は推進会議とした。策定時と同様のスタイルで進めていきたい。
	・要綱改正案は「総合計画の推進」の追加だが、もっと具体的に表した方がいい。	・具体的な役割は「総合計画推進方針（資料3）」の中で表している。市の要綱では、一般的に組織の基本的な部分を表現することになる。
	②協働会議の事務局について	
	・東海市では、市から独立した事務局を設けて評価と提案を行っている。市と一体となって進めていくのか、市から独立して進めていくのか、そこまでできるかを含めて検討が必要。	・事務局を市民自らの手で運営するのは理想的な形の一つだと思うが、現実的に最初からつくるとなると、時間的制約や人材の面でも課題が多い。まずやってみて、その中で事務局のあり方も協働で考えていく方がいいのではないかと考えている。
	Ad（東海市では、市主導でない形で市民の意見をまとめたいとの意向から、事務局を独立させた経緯がある。）	
	③協働会議の体制について	
	・協働会議の規模は、策定時と同様に50人程度を考えているのか。	・要綱上は、策定時と同じ委員数を想定しているが、策定とは異なり、分野をある程度絞り込むことも予想されるため、場合によってはこれより少なくなることも考えられる。
	・分科会形式を想定しているのか。	・策定時と同様、分科会形式を想定している。
	Ad（分野別の協議について、必要な関係団体で分科会を行い、それを全体会で集約するというスタイルが考えられる。）	
	・市の活動が横断的にわかるように、協働会議には各部長に参加してほしい。	・「総合計画推進方針（資料3）」の中で、各部長は協働パートナーとして加わることにしている。関係する部長は全員参加することになると考えている。

区分	意見の概要 (Adはアドバイザー意見)	市事務局の検討状況
(1)組織のあり方	④委員の構成について	
	・策定時のような委員構成で良いのかどうか。 ・専門性のある市民を育てることも必要では。 Ad (策定時の委員は指標の経緯などがわかる。例えば、経験者を半分入れながら徐々に交代していくことも可能。逆に、経験者がずっと残ると発言力が強くなってしまいう。)	・基本的には、これまでと同様の考え方で呼びかけを行っていききたい(資料9参照)。 ・その中で、委員を徐々に交代していくことも含めて、どのような形が市民の活動を高めることになるのか検討していききたい。
	⑤委員の公募について	
	・公募制を考えているか。意見したい市民もいるのでは。 Ad (東海市では全員市民公募としている。審査基準、男女構成や年齢構成のバランスなど難しい面もあるが、公募が全くないと市民参加といえないのでは。市民公募の際は、意見を言う場というより、協働で作業する場だとはっきり伝えることが必要。)	・策定時は、個人公募という形ではないが、公益的活動を行う団体からの団体推薦を広報でも周知しており、広くとらえると団体公募ともいえる。基本的には、これまでと同様の考え方で呼びかけを行っていききたい(資料9参照)。個人の意見については、策定時と同様、パブリックコメントを行いたい。
	⑥委員の選任について	
	・団体推薦の人や市推薦の人など、明確な基準がわからなかった。基準や周知が必要ではないか。 Ad (団体推薦を依頼する場合も、意見を言う場というより、協働で作業する場だとはっきり伝えることが必要。)	・策定時は、市関係団体を含むまちづくり活動を行う団体からの推薦者全員と、識見を有する人から一定の基準により選任した。なるべくわかりやすい形で周知したい(資料9参照)。
	⑦委員の報酬・謝礼について	
	・市の審議会や委員会で報酬・謝礼があったりなかったりするが、市の基準や考え方はあるのか。協働会議はどうあるべきか、検討が必要。 Ad (協働会議の予算としては、報酬・謝礼以外の経費もあるはず。報酬・謝礼については、ある場合にもない場合にも理由はある。作業型会議の事例も調べてみては。)	・法令の規定により、市の非常勤特別職として委嘱する場合は、条例に基づき報酬を支払っている。それ以外では、謝礼がある場合とない場合があるが、専門性の高い会議における大学教授などを除くと、謝礼がないケースが大部分であった。(今後、市として統一した考え方で整理する必要がある。) また、作業型会議の事例を調べてみたが、東海市と同様、市民公募で無報酬というのが一般的であった。 今回の協働会議は、市の非常勤特別職としてではなく、いろいろな分野で活躍されている市民の方々と一緒にまちづくりを行っていききたいという趣旨から、策定時と同様、交通費の費用弁償という形でお願いしたいと考えている。

区分	意見の概要 (Adはアドバイザー意見)	市事務局の検討状況
(2) 評価のあり方	①指標について	
	指標によっては、社会情勢に左右されるが、その対応は。 Ad (社会情勢に応じて目標を下げてもいいということではなく、目標に届いていないから重点的にやる必要があるというのが基本。)	場合によっては、目標値の軌道修正も考えられる。5年後の基本計画見直しに反映していくことになる。
	指標の項目に増減はあり得るか。	マッチする指標があれば、追加も検討したい。5年後の基本計画見直しに反映していくことになる。
	②各主体の評価について	
	- 策定時に、まちづくりの推進にあたっては、市が主体ということではなく、市と市民の役割分担の中で市民が主体的に関わっていくことがあるべき姿と提言したが、示された案では市主導の印象を受ける。 - 市と市民が協働でまちづくりを推進していく場合、市は市民に働きかける責任、市民はそれに応えていく責任がある。市当局、各主体がそれぞれどう動いたか評価していく必要がある。 Ad (協働をうまくやっていくには、しっかりした役割分担が必要。主体は市なのか、団体なのかなど、協働の関係がはっきりしてくれば、役割分担を明記した総合計画に沿った評価をしていくことができる。)	- 策定時の協働会議の提言も踏まえた上で、計画の実行段階でも市と市民が協働してまちづくりを行っていきたいと考え、今回の仕組みを検討してきたものであり、策定時から考え方は変わっていない。 - 指標の推移をもとにまちづくりの評価を行い、役割分担のどの部分が不足しているのか、どういうところに力を入れていけばいいのか、改善策を協働で検討していきたい。
	③部局の評価について	
	- 市の担当部局の評価を検討できないか。 - 一つの目標指標が一つの市の部局と対応するわけではないので難しいのでは。部門別に評価する場合も、市ではなく県の仕事という場合もある。 Ad (市民が自ら目標値を評価することでスキルが上がる。市の部局も考え方がしっかりしていないと評価が下がってしまうので、一生懸命市民と議論するようになる。市の場合、市民にどう働きかけ、どれだけやったか、県に働きかけたか、県と一緒に国に陳情等を行ったか、などのプロセスも評価に含まれてくるということ。)	指標の推移をもとにまちづくりの評価を行い、役割分担のどの部分が不足しているのか、どういうところに力を入れていけばいいのか、改善策を協働で検討していきたい。 その中で、市の不足している部分、力を入れるべき部分についても協働会議から提案していただき、可能な限り反映していきたい。

区分	意見の概要 (Adはアドバイザー意見)	市事務局の検討状況
(2) 評価のあり方	④ 評価と予算について	
	・ 事業費の資料があれば、より正確な評価ができる。	・ 総合計画の実施計画書に、部分的ではあるが事業費を載せているので、協働会議に参考資料として配付したい。
	・ 評価して提案した内容が予算に反映されるのか。 Ad (重点的に力を入れたい分野があれば、どこかを減らさないとできないので、順調な特定の分野を減らすということも、協働会議で提案できればいい。)	・ 基本的に予算は市と市議会で決めるものだが、協働会議で提案されたものについては、可能な限り反映していきたい。
	⑤ 評価と提案について	
	・ 評価をしっかりと行うとなると、それなりの作業量が発生するのでは。 ・ 市民が批判的に考えるのではなく、市に提案できるというのは前向きなシステム。	・ どこまでも専門性を求めて評価を掘り下げていくのではなく、目標指標に対する実績値をもとに市民の目線で評価を行っていただいた上で、どうしたら改善できるのかを提案していただくことを基本に考えている。
(3) スケジュール	① 作業スケジュールについて	
	・ 協働会議のスケジュールは、7月～11月ということになるのか。 Ad (協働会議にできるだけ時間をとって、予算に反映させるとすれば現実的なスケジュールだろう。)	・ 年度前半に指標の実績値の把握作業、年度後半に予算編成作業があるので、この辺りが目一杯だろうと考えている。
	② 指標の実績値と市民意識調査について	
	・ 指標の実績値は前年度のものになるのか。また、市民意識調査は反映されるのか。	・ 実績値は直近のものを想定している。市民意識調査については、他の指標より少し遅れるかもしれないが、協働会議の作業スケジュールに合わせて反映できるようにしたい。